

自然と向き合う ということ

環境や天候にもっとも左右される産業である農業。日々、変わりゆく自然環境と対話しながら生活する町民の声をお届けします。

「環境が変わっても、 この土地に根づいた 農業を続けたい」



農家 **田中 大樹** さん (上延沢)

大学を卒業後、大分県で有機農業を学ぶ。2004年に開成町に移住し、「Junkan農園」を立ち上げる。農薬や化学肥料を使わない「循環農法」により、米と野菜を生産。福岡県出身。

農業との出会いと町の変化
実家は非農家で、農業とは全く縁のない環境で育ちました。学生時代にインドネシアの農村にホームステイしたことをきっかけに、自然と向き合いながら食料を作る農業に興味を持ちました。
開成町で就農してから18年の間に、自然環境が大きく変わったという感覚はありますが、田んぼでは赤とんぼや幼虫のヤゴを、あまり見かけなくなっている気がします。生き物の生息状況は少し変わったのかも知れません。
田んぼを取りまく生態系
現在、有機稲作に取り組んでいます。田んぼには、大小様々な動植物が生息し、稲の生育を支えています。例えば、田植えをする1か月前から田んぼに水を張ると、水中の微生物の活動により田んぼの表面がトロトロになります。そうすると、水田雑草が発芽しにくくなったり、藻が発生して田んぼ一面を覆うため、雑草が発芽しても、藻で光が遮断されて生長出来なくなったりします。



Junkan 農園HP



身の回りの 変化と適応

気候変動の影響は、私たちの生活のあらゆる場面に及びます。身近な変化と適応策について考えましょう。



洪水・浸水対策

極端な降雨の発生頻度や強度が増すことにより、河川・水路の整備基準を超える規模の洪水・浸水が発生し、被害を生じさせる可能性があります。

▶**適応策**
ハザードマップなどの防災情報の取得
避難場所の確保 土のうの準備 等

生物・自然生態系

気温・水温の変化により、生物の生息域が変わったり、外来種が繁殖しやすい環境になったりします。

▶**適応策**
モニタリングによる生態系変化の把握
気候以外の要因によるストレスの低減 等

健康管理

気温上昇による熱中症や食品の細菌増加、蚊やダニが媒介する感染症のリスクが高まります。

▶**適応策**
水分補給と体温管理 消毒などの衛生管理
害虫を発生させない環境づくり 等

農作物の栽培

気温や二酸化炭素濃度の上昇、強雨の頻発や降水量の減少により、品質や収穫量に影響を受ける農作物が増えます。

▶**適応策**
品種の変更・改良 栽培時期の変更
気温の上昇を利用した産地の拡大 等

植栽・下草の管理

気温や二酸化炭素濃度の上昇により、庭木や雑草の繁茂が早まり、温暖地域の外来植物が定着しやすい環境になります。

▶**適応策**
背丈が高くならず管理が容易な植物の導入
こまめな植栽剪定・除草 等

